

子供の創造性をひき出し創作活動を活発にする

ダンス（表現）・体操指導の実践

いわき市立平第五小学校教諭 木村敦子

一、実践の趣旨

(一) 体育科における創造性

体育科の中で「つくる運動」とされているのは、ダンス（表現）と体操の領域である。体操はつくることを特性とし、ダンス（表現）の基本的な特性も「創作活動」である。したがって、計画的に創造性を育成する場として最適であると考えられる。

(二) 「つくる運動」における創造性の観点

① からだによる表現、からだの動きによる創造であること

② 集団による創作活動であること
 であろう。ものの見方、とらえ方、更に感情や思考を効果的に表現するために、からだの動きを、個人又は集団の力でつくり出すということにあると考える。

子供たちには、程度の差はあっても、すべて創造的な表現力を有している。これに着目し「つくる」過程を重視し、つくる喜びをはぐくむことが必要であろう。

(三) 創造性を引き出し高めるために

ダンス（表現）には、技能的な面も考えられると思うが、子供たちが自分なりに考えたり、くふうしたりしてつくり出す過程をたいせつにしたい。つまり、独自の表現であるなら、それはりっぱな創作である。

このような創作経験をじゅうぶんに持たせることによって、創造性が高められると考える。この場合、教師の体育観なり教材観なりが問題となってくる。適切な場づくりや手だてを考えてやるのが、子供たちの創作活動を活発にし、創造性の高まりが期待されるのではないだろうか。

二、実践の内容

(一) 「表現」の指導の実践

◇ 雪の日——（四学年）
 〈第一次〉

○ 内容にふさわしい動きを出させる
 ○ グループで大体の筋をつくらせる

教師——

「さあ、一人一人が雪の粒ですよ、ちらり、ちらり、空から白いものが落ちてきました。」

「だんだんふえてきました。あとからあとから落ちてきます。」

「風が吹いてきました。吹雪です。ピュー、ピュー、クルクルクル。」

児童——

教師の話につれて、静かな動きからだんだんはげしくなり、回転したり走ったり、ジャンプしたりする。

教師——

「雪がやみました。たくさん積もりましたよ。さあ雪かきです。ヨイショヨイショ、遠くの方へもホイッ。」
 こんどは、スキーで滑りましょう。スーイ、スーイ、ツツツ、あつ、あぶない。」

「雪だるまをつくりましょう。ころころころ、ヨイショ、ヨイショ、雪の玉がだんだん大きくなっていきます。ドッコイショ、ドッコイショ。たいてい固めましょう。」

児童——

一人一人が、口伴奏を入れながらよく動いている。ユーモラスなふんい気になってきた。

考察

第一次取り扱いで、グループ活動に入る前の個の動きによるイメージのほり起こしの時間をたいせつにしたい。そのものになりきらせるための一種の暗示とでもいおうか。

表現の経験が豊富な学級の取り扱いの容易さを感じる。

教師——

グループで「雪の日」のお話の筋をつくりましょう。記録係はカードに書きなさい。

児童——

六人が顔をよせ合って、仲よく話し合っている。記録するのに時間のかかるグループの中には、筋に合わせて動きに移している者もあった。

考察

話の筋づくりが短時間にできるようになればしめたもの。リーダーの活躍が期待される。

このカードはイメージの深化拡大を図るポイントである。

月	日	四年	組
題名 雪の日			
第○班			
メンバー	○○○○○○	○○○○	○○
班長	○○○○	○○○○	○○
記録係	○○○○	○○○○	○○
お話のじゅんじょ			
1、雪がちらちら降ってくる			
2、だんだんはげしくなる			
3、ふぶきになる			
4、雪がやんでたくさん積もる			
5、子供たちが集まってくる			
6、遊びのそうだんをする			
7、雪のたまをつくる			
8、雪がっせんをする			
9、また雪がふりはじめる			

第二次、第三次とグループの練習と見せ合い、なおし合いの中で、子供たちから他のグループの動きはわかるが自分たちのことはわからないとの反省があり、VTRの使用を思いつきビデオテープで見せた。音声や周囲音も同時に入っているので、現実的で活気が